

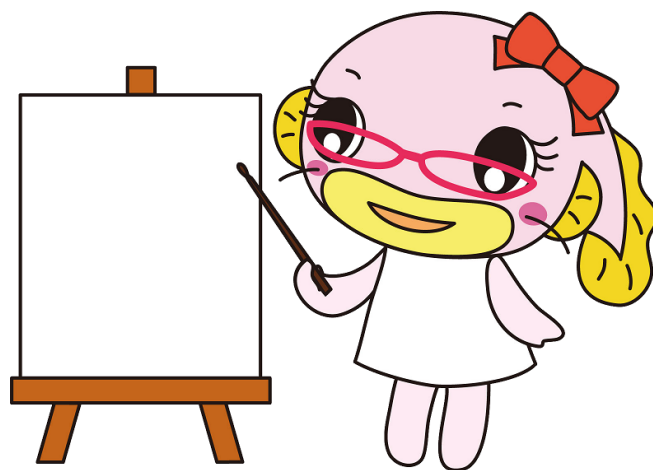
---

令和4年度吉川市

# 主な事業のあらまし

---

市民の皆さまからお預かりしているお金の使い道などを  
わかりやすくご説明します。



©yoshikawa



吉川市

## Q そもそも、予算とはなんですか？

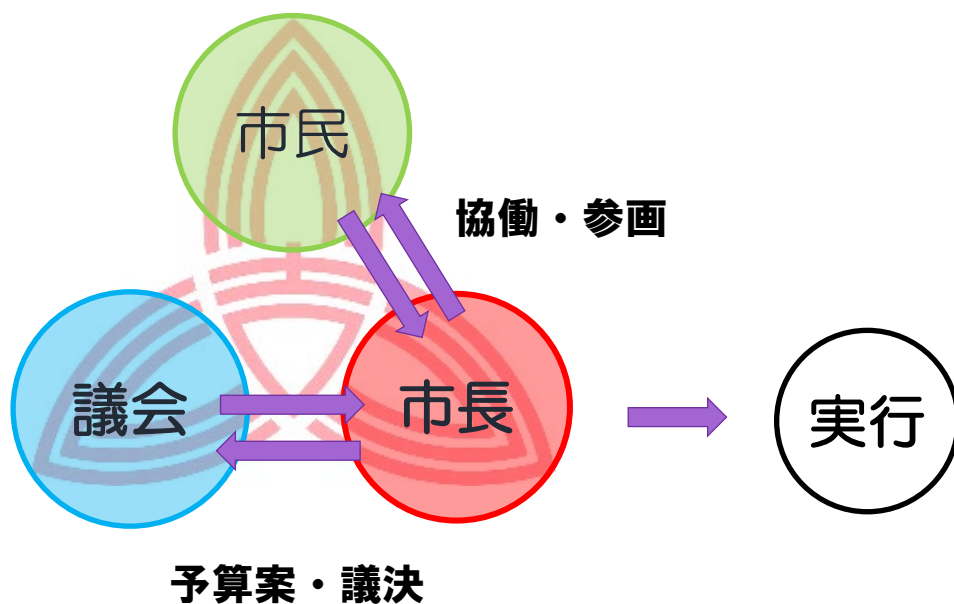
A. 予算とは、1年間の収入と支出を見積もることです。

新しい年度が始まる前に、1年間(4月から翌年3月まで)にどのくらいの収入があるか、その収入を元にしてどのような事業を行うかを計画し、その費用を見積もります。

## Q 予算はどのように決まるのですか？

A. 市の担当部局が、市民の皆さまからのご意見などを考慮して、1年間の事業計画を検討します。市長は、担当部局との調整を重ね、予算案としてまとめ、市議会に提出します。

市議会は、提出された予算案を審議した上で、議決によって予算を決めます。



Q

令和4年度の吉川市の予算は？

A.一般会計、特別会計、企業会計の予算を合わせると、

**458 億 3,314 万円**になります。

**一般会計**

**242 億 1,500 万円**

**特別会計**

**165 億 5,778 万円**

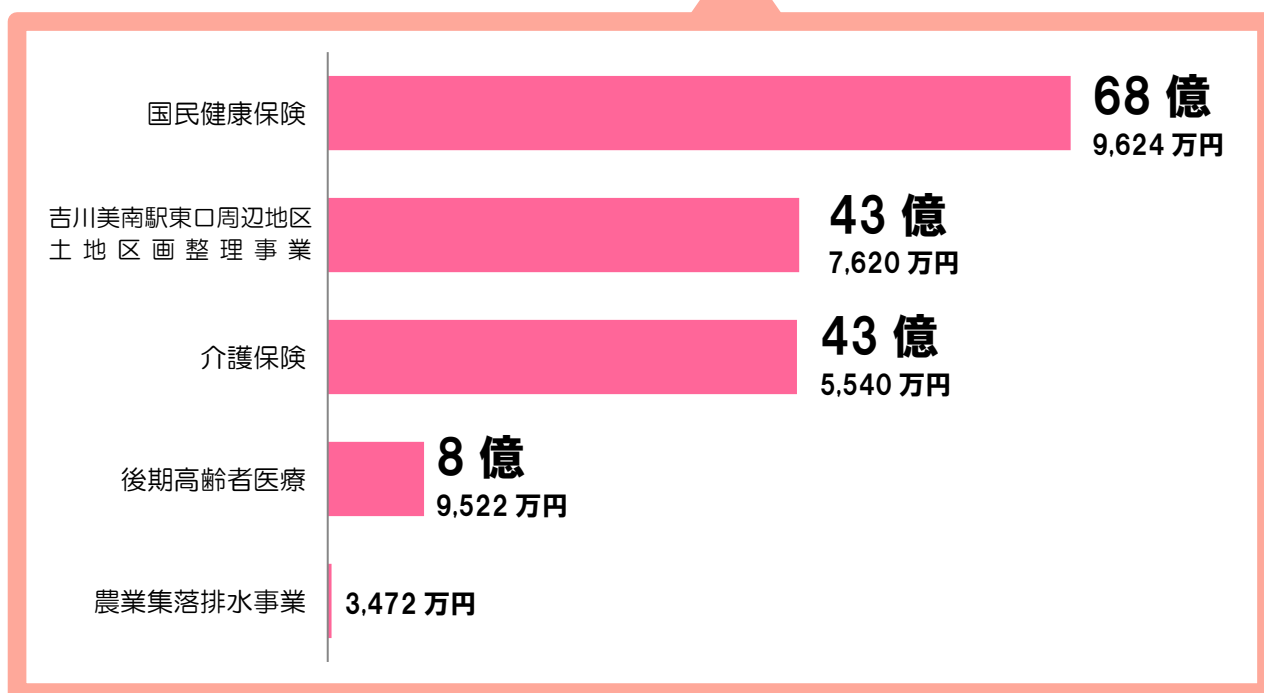
**公営企業会計**

**50 億 6,036 万円**

福祉、教育、道路整備などを進める基本的な行政サービスを行うための会計です。

特定の目的の会計で、吉川市には5つの会計があります。

市が経営する企業の会計で、吉川市には水道事業会計、下水道事業会計があります。

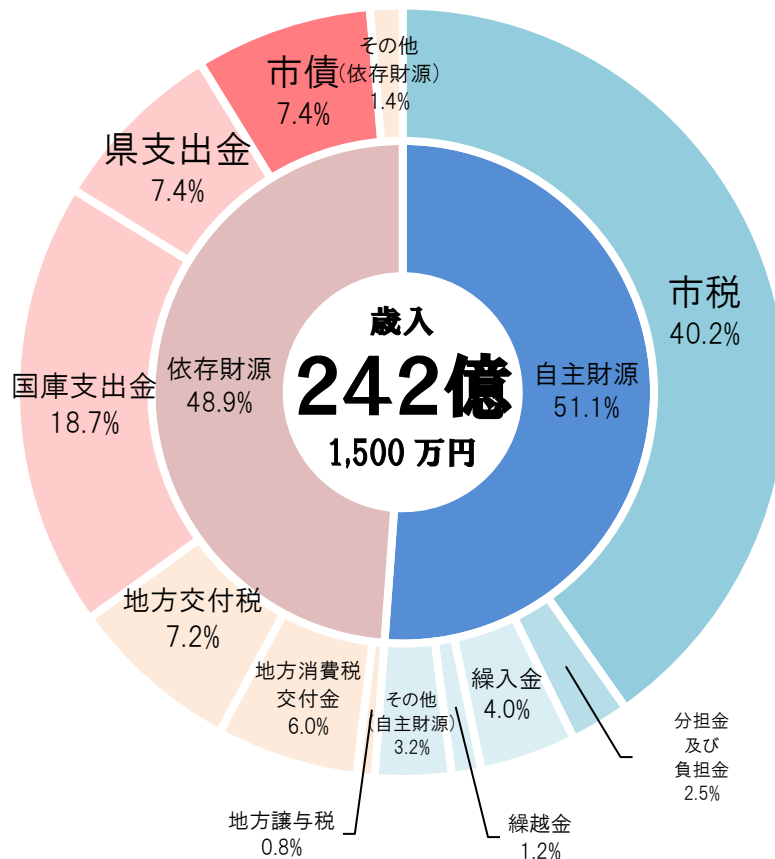


※公営企業会計については、収益的支出と資本的支出の合計額を予算額としています。

※本文及びグラフの数字は1万円未満を四捨五入しているため、予算書の予算額と一致しない場合があります。

## Q 令和4年度の吉川市の歳入は？

A. 一般会計の歳入には、市税や国・県からの支出金、銀行などからの借入金や施設の使用料などがあります。



### ～依存財源～

吉川市が国や県などに依存するかたちで調達する財源です。

#### ●市債 17億9,620万円

大規模な工事などの事業を実施するために、国や金融機関から借り入れるお金です。

#### ●国庫・県支出金 63億3,649万円

皆さんが国や県に納めたお金の一部が、特定の目的を達成するために地方公共団体に交付されます。

#### ●地方交付税 17億4,000万円

皆さんが国に納めた税金の一部です。一定の割合に応じて地方公共団体に交付されます。

#### ●地方譲与税 1億8,300万円

国税として徴収した特定の税目の収入の一部が、一定の基準に基づいて地方公共団体に譲与されるものです。

### ～自主財源～

吉川市が自らの権能に基づいて自主的に収入できる財源です。

#### ●市税 97億3,819万円

市民の皆さんから吉川市に納めて頂く税金です。市民税、固定資産税などがあります。

#### ●分担金及び負担金 6億102万円

事業にかかる経費の一部を受益の程度に応じて利用者に負担していただいているお金です。

#### ●繰入金 9億7,584万円

一般会計と特別会計の間で相互に資金運用するためのお金や、各種基金(市の貯金)を取り崩して使うためのお金です。

#### ●繰越金 3億円

前年度の支出を差し引いて余ったお金を、今年度の財源とするために繰り越した分のお金です。

## Q 令和4年度の吉川市の歳出は？

A.歳出は12の目的に分けられ、一般会計 242 億 1,500 万円のおよそ 44.3%が児童手当や保育委託料、障がい・高齢福祉サービスなどの民生費で 107 億 2,497 万円となっています。また、性質別など違う角度から見ることで、吉川市の現在の状況などを知ることができます。

### ●議会費 2億 520万円

市議会の運営に必要な経費です。

### ●総務費 20億 8,756万円

市役所の全体的な仕事に必要な経費です。

### ●民生費 107億 2,497万円

社会福祉や児童福祉に必要な経費です。

### ●衛生費 18億 9,567万円

健康維持や環境保全などに必要な経費です。

### ●農林水産業費 2億 6,994万円

農業の振興や普及に必要な経費です。

### ●商工費 1億 5,964万円

商工業の振興などに必要な経費です。

### ●土木費 32億 5,147万円

道路や公園などの整備などに必要な経費です。

### ●消防費 12億 1,238万円

減災、消防などに必要な経費です。

### ●教育費 23億 9,159万円

学校教育、社会教育などに必要な経費です。

### ●公債費 20億 139万円

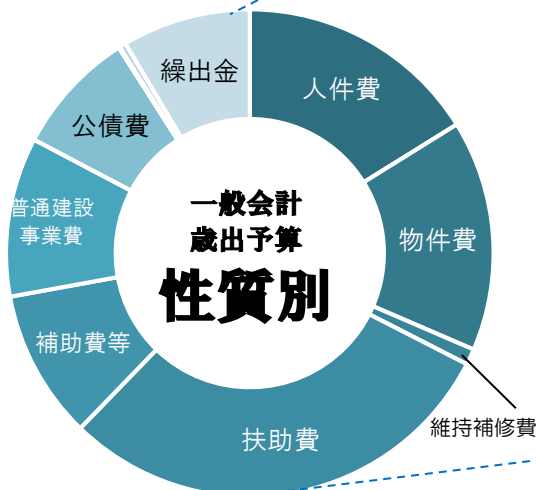
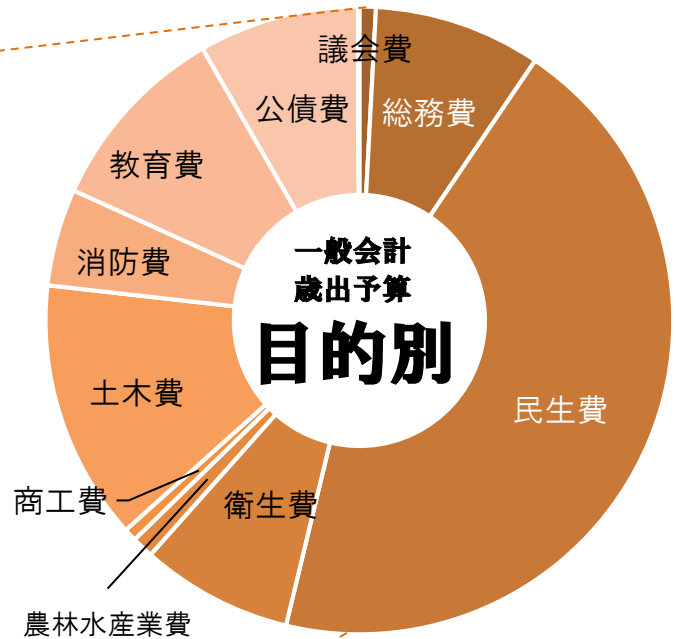
借入金の返済に必要な経費です。

### ●諸支出金 19万円

ほかの支出に含まれない経費です。

### ●予備費 1,500万円

緊急の支出に充てるために必要な経費です。



### ●人件費 39億 1,010万円

職員の給与などに係る経費です。

### ●物件費 37億 1,140万円

光熱水費、消耗品費、通信運搬費、委託料などの経費です。

### ●維持補修費 2億 5,535万円

市が管理する施設等の効用を維持するための費用です。

### ●扶助費 71億 9,450万円

子育て支援、障がい者支援、生活保護などに係る経費です。

### ●補助費等 23億 9,635万円

団体への補助や一部事務組合に対する負担金などの経費です。

### ●普通建設事業費 25億 6,077万円

道路や学校の改修など都市基盤の整備に係る経費です。

### ●積立金 18万円

### ●貸付金・出資金 1億 743万円

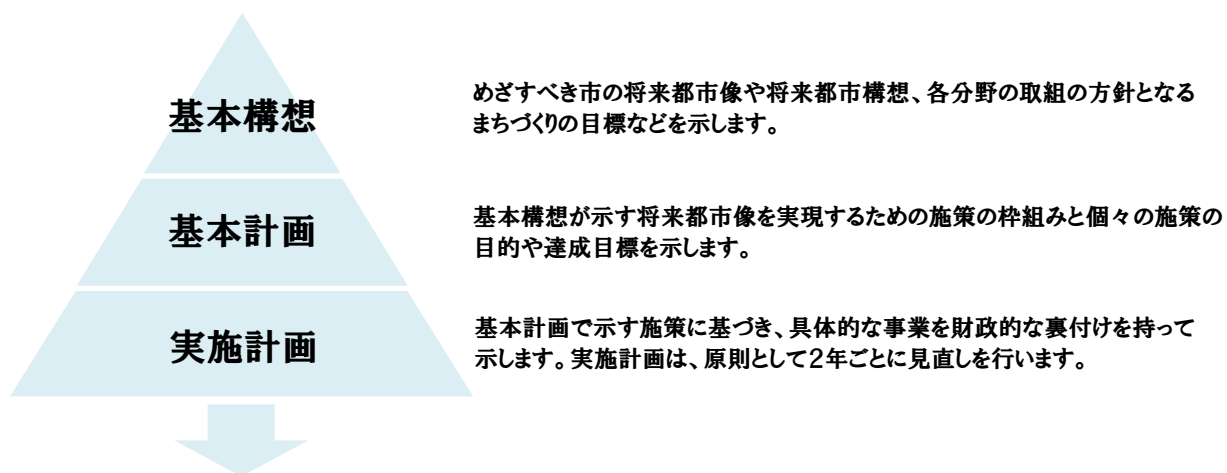
### ●公債費 20億 139万円

### ●繰出金 20億 6,253万円

### ●予備費 1,500万円

## Q 令和4年度はどのような事業を行う？

A.吉川市で令和4年度に行われる事業の一部を、第6次総合振興計画・前期基本計画の重点テーマごとにご紹介します。総合振興計画とは、吉川市のめざすべき将来都市像「幸せつながる みんなのまち よしかわ」を実現するため、市政運営の長期的な指針を示すことを目的として策定するもので、「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成しています。



まちづくりの目標として設定する施策体系のうち、前期基本計画において特に積極的かつ分野横断的に推進すべき取組を「重点テーマ」として位置付けています。

### 第6次総合振興計画前期基本計画施策体系

- |                            |                                  |
|----------------------------|----------------------------------|
| I 人を育むまちづくり <こども・学び部門>     | V パートナースhipによるまちづくり <パートナーシップ部門> |
| II 支え合う健やかなまちづくり <健康・福祉部門> |                                  |
| III 安心と賑わいのまちづくり <生活・産業部門> |                                  |
| IV 快適で持続可能なまちづくり <都市・環境部門> |                                  |

### 重点テーマ

I 命を守る

II 子どもの笑顔を未来につなぐ

III 誰もが輝くまちをみんなで創る

IV 価値を高め、次世代に継承する

# I 命を守る



## ●新型コロナウイルス対策

- 新型コロナウイルスワクチン接種について、円滑かつ速やかな接種を進めるほか、関係機関との連携のもと、PCR検査センターの設置・運営の支援や、来場が困難な方への送迎支援を実施します。
- 草加保健所への市保健師の応援派遣や在宅療養者へのパルスオキシメーター・食料の配送、保育所や学校などで要観察者とされた方々へのPCR検査費用の助成など、第5波の感染拡大時に実施した施策を状況に応じ展開し、「命を守る」コロナ対策をしっかりと進めてゆきます。

## ●災害への備え

- 「関小学校地区」を舞台に、水害と震災を想定し、女性や外国人、減災リーダー、中学生などが積極的に参加できるような「減災プロジェクト」を実施するほか、これまでの減災プロジェクトを通じて策定してきた「避難所開設運営マニュアル」を、ほかの避難所にも展開していく取り組みを進め、引き続き地域における減災力の向上を図ってゆきます。
- 減災アプリをはじめ、登録制メールや防災ツイッターなど、災害時等における情報ツールの活用を推進してゆきます。また、迅速かつ円滑に災害対応が行えるよう、デジタル移動系防災行政無線を整備し防災体制の強化を図ってゆきます。

### 主な事業費

新型コロナウイルスワクチン接種	1億9,358万円	減災プロジェクト会場設置委託料	72万円
デジタル移動系防災行政無線購入費	1,142万円	総合的な治水対策に要する経費	959万円

# II 子どもの笑顔を未来につなぐ



## ●児童福祉の推進

- 子供やその家庭を、地域資源や必要な福祉サービスに適切につないでいく「子ども家庭総合支援拠点」を設置し、相談体制の強化に取り組むほか、児童虐待への対応についても、「子ども家庭総合支援拠点」を軸に、各関係機関と連携して対策の強化を図ってゆきます。
- これまで支援の手が届きにくかった「義務教育修了後の若者に対する支援」の在り方について、有識者等からなる検討会議を設置し、検討を開始してゆきます。
- 令和5年度が最終年となる「子どもの貧困対策推進計画」について、第2期計画の策定に向けて、子育て世帯生活実態調査を実施してゆきます。
- コロナ禍においても安心して子供を預けられるよう、保育施設・学童保育室における「感染拡大防止対策」に必要な物品等の整備を継続するほか、最前線で働く保育士等の処遇改善を国と同調して実施してゆきます。

## ● 学校教育の充実

- 国が導入する小学校全学年35人学級への移行を進めてゆきます。
- 市内全ての小中学校に学校運営協議会を設置し、令和3年度の吉川中学校区における取り組みの成果を踏まえ、「コミュニティスクール」の導入を進め、学校・家庭・地域の連携・共働の関係を築いてゆきます。
- 一人一台のタブレットによる家庭学習の充実や、学習支援アプリを効果的に活用し、「主体的、対話的で、深い学び」を実現するICT教育を推進してゆきます。
- 小中学校における医療的ケアへの対応として、看護師を配置するとともに、安心して学校生活を送れるように医師、看護師、福祉関係者を含めた会議を実施し、支援体制の充実に努めてゆきます。

主な事業費			
利用者支援員・家庭児童相談員報酬等	1,067万円	若者支援の在り方に関する検討会	45万円
子どもの貧困対策計画策定に係る経費	222万円	保育施設等における感染症対策経費	2,040万円
児童館の運営に係る経費	1,642万円	小学校35人学級への対応に係る経費	1億2,005万円 (R4～R14 総額)
学校運営協議会委員報酬	124万円	医療的ケア実施体制構築に係る経費	395万円

※ 共働…市民と行政が課題を共有し、解決に向けて共に動くこと。市長が掲げる理念の一つ。

## Ⅲ 誰もが輝くまちをみんなで創る



### ● 多様性を認め合う社会づくりとジェンダー平等の推進

- 「よしかわパートナーシップアクション」に基づき、ジェンダー平等の視点で「多様性を認め合い、誰もが自分らしく生きることができるまち」を目指すとともに、性の多様性についても、「パートナーシップ宣誓制度」により、性的指向又は性自認に係る性的少数者の生きづらさや困難さの軽減に取り組んでゆきます。

### ● 国際交流の充実

- 外国人住民などが理解しやすいよう、多言語化による情報提供に努めるとともに、文化や習慣の違いについて双方向の理解を深め、外国人も共に地域のまちづくりにおいて活躍できるよう、関係団体と協力し、地域における多文化共生の機運を醸成し、国際性豊かなまちづくりを進めてゆきます。



©yoshikawa



## ●パートナーシップのまちづくり

○「市民シンクタンク」「みらいステップアップ助成金」事業をはじめ、「市長キャラバン」「どこでも市長」「市民パーソナリティーによるラジオ番組」などによる「共動」を継続・深化させると同時に、自治連合会との共動事業「地域課題を地域で解決するための勉強会」においても研究・実践を深めるなど、様々な施策を市民と行政の「共動」により進め、「市民の幸福実感の向上」を目指してゆきます。

## ●高齢者福祉の推進

○「高齢者が幸福を実感し、住み慣れた地域で生きがいを持って暮らし続けられる」ことを理念に、地域包括ケアシステムを推進するため、介護予防・日常生活支援総合事業の体制整備として民間事業所プールを活用した通所型サービスや、生活支援サービス、公共交通を補う移動支援に取り組む自治会などへの支援を行ってゆきます。

## ●障がい者福祉の推進

○「ノブくんスマイル基金」を活用し、「就労」については、事業主や支援者の方々の協力を得ながら、職場実習と就労の初期に対する支援をスタートさせ、「グループホーム」については、親亡き後を見据え、具体的な補助制度の構築に向けて取り組んでゆきます。

○障害の有無や性別、年齢、国籍の違いなどに関わらずスポーツを楽しめる取り組みとして、ポッチャ大会や、ロービジョンフットサルを活用した事業等を開催し、多様性への理解を深め、共生社会の実現を目指してゆきます。

主な事業費	
多文化共生の推進に係る経費	14万円
パートナーシップのまちづくりに係る経費	235万円
高齢者福祉の増進に係る経費（介護保険特別会計の地域支援事業を含む）	3億2,193万円
障がい者就労支援補助金	126万円
グループホーム整備事業補助金	350万円

## IV 価値を高め、次世代に継承する



## ●持続可能な環境の保全

○再生可能エネルギーの普及を図るため、市役所庁舎の電力を再生可能エネルギー由来の電力で賄うことができるよう、「環境負荷の低減」と「経済性」の両立の観点も踏まえ、取り組みを進めてゆきます。

○「住宅用太陽光発電設備等設置補助金」について、太陽光パネルの補助に加え、蓄電池の設置についても補助を拡充し、住宅における再生可能エネルギーや自立したエネルギーシステムの普及促進を図ってゆきます。

○「環境配慮意識の醸成」について、令和3年度は、「環境学習」を民間企業との連携の中で実施するとともに、環境センターにおいて「3R子ども学習教室」を開催しました。令和4年度については、「より良い環境、より良い未来を創る」を理念として、さらに多くの関係機関と連携し、環境学習の充実を図ってゆきます。

## ●産業振興

- 「三輪野江地区」を、農業や工業などの多様な産業の振興を図る新たな拠点として、「第6次総合振興計画」に位置付けたことを踏まえ、①「農業パーク」については、国や県などとの協議を重ねながら、コンサルティング業務委託により、詳細な内容の検討に着手してゆきます。②「新たな工業地の整備」に向けた検討についても、関係機関との調整をさらに進め、今後は地元説明会、地権者の意向調査などを行い、産業振興拠点の形成に向けて、地権者と地区住民の方々のご理解とご協力をいただきながら、着実に進めてゆきます。
- 「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を活用し、需要に応じた生産を促進するため、市内水田に主食用米以外の作物の作付けを行う取り組みや、農業経営の拡大・転換・改善等の取り組みなど、自らチャレンジ精神をもって農業改革に取り組む農業者を支援してゆきます。
- 「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を活用し、複数の市内事業者の連携による新たな事業展開を支援し、強靱な市内経済の構築に向けて取り組んでゆきます。

## ●文化芸術の振興

- 文化芸術により心豊かな市民生活と活力ある社会に寄与することを目的に、令和4年3月定例会に上程した「文化芸術基本条例」に基づき、計画を策定し、文化芸術に触れ合う様々な機会を創出する中で、「文化芸術の振興」を継続・発展させてゆきます。
- 文化芸術活動へのモチベーションと作品の質の向上、優れた芸術作品を間近にすることによる新たな創作意欲の促進を目的に、「第1回吉川市展」を実施します。
- 市指定文化財である「千鉢庚申塚」、「石仏 加藤の大威徳明王」の案内板を設置し、わがまち吉川市を知り、郷土愛を育む事業を展開してゆきます。

## ●「なまず」を用いた取り組み

- 「なまずの日」制定5周年を記念し、「なまず」をモチーフとしたオリジナルの郵便ポストを作成します。
- 学校給食において、「なまずの日献立」に初めて国産なまずを提供するほか、小学校の総合的な学習の時間で実施している「なまずを用いた学習」を引き続き実施し、なまず文化と歴史への理解や市民の愛着心の醸成、「なまずの里よしかわ」の認知度の向上に努めてゆきます。

## ●吉川美南駅東口周辺地区土地区画整理事業

- 令和5年春には、都市計画道路などの幹線道路の暫定供用開始とともに、産業ゾーンの宅地完成を予定しています。令和4年度は、市の新たな玄関口となる商業業務ゾーンへの将来性ある企業の誘致に向けた取り組みを進めるほか、住宅ゾーンの造成工事も推進してゆきます。

主な事業費			
住宅用太陽光発電設備等設置補助金	193万円	農業拠点整備支援業務委託料	398万円
農業経営拡大・発展等支援事業費補助金	3,000万円	産業振興推進事業費補助金	3,092万円
オリジナルポスト作成業務委託料	113万円	市展の開催に要する経費	62万円
吉川美南駅東口周辺地区土地区画整理事業特別会計繰出金		8億6,682万円	

## その他の主要な事業

### ● デジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進

○人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させるため、これまで自治体がそれぞれにカスタマイズしていた情報システムを全国で共通化することにより、人的・財政的負担の軽減を図り、その資源を活用して、市民サービス向上や地域の課題解決に注力できるよう取り組んでゆくとともに、行政手続きのオンライン化の着手や、多言語翻訳をはじめとするAI等デジタル技術の導入を進めてゆきます。

### ● 都市基盤の整備

- 都市づくりの根幹である「道路整備」について、「都市計画道路越谷吉川線」、「都市計画道路三郷吉川線」、「都市計画道路三郷流山線」、「三輪野江地区無名橋」において、整備が計画的に進捗するよう県をはじめとする関係機関との連携を図る中で、事業を進めてゆきます。
- 「交通安全対策」について、令和3年は市内における交通死亡事故がなく、人身事故件数も2年連続で減少し、埼玉県交通安全対策協議会から「交通安全推進市町村」として表彰されました。引き続き、各関係団体等と連携して、交通事故防止に向けて取り組むほか、歩行者の安全を確保するため、生活道路や通学路の交通安全対策施設の整備に取り組んでゆきます。
- 「JR武蔵野線吉川駅北口駅前ロータリー」については、交通広場内の渋滞緩和や通行の安全性を確保する構造について、埼玉県警や公共交通事業者との協議、障害を持つ方や子育て世代の方など、それぞれの視点からいただいたご意見を踏まえ、事業の実現に向けた実施計画書を作成してゆきます。

### ● 公園の整備

- 「沼辺公園」の大型遊具などの修繕を実施するとともに、吉川第一土地区画整理地内の公園を中心に、老朽化した遊具の修繕や休憩施設の更新を進め、公園利用の安全・安心の向上に取り組んでゆきます。
- 「アクアパーク」において、人気が高まっているスケートボードやバスケットボールの利用ニーズに対応するため、広く市民が利用できるよう駐車場の整備を行い、利便性の向上に取り組んでゆきます。
- 「三輪野江地内の大沢雄一元埼玉県知事の居宅跡地の整備」について、引き続き、市民が自然を身近に感じる憩いの場、自然とふれあえる環境教育の場としてふさわしい施設整備を進めてゆきます。
- 市民がスポーツに親しめる環境を整えるため、東埼玉資源環境組合第2最終処分場や、吉川美南駅東口開発地域の1号調整池底面をスポーツ施設として活用できるよう、整備を図ってゆきます。併せて屋外市民プール跡地も含めた様々な資源の活用も検討し、分散型スポーツ施設の整備を進めてゆきます。

### ● 公共交通の充実

○仕事やライフスタイルの変化もあり、公共交通事業者の経営環境は、厳しい状況にある中で、市民や公共交通事業者、国・県の関係者、有識者の方を交えて意見交換を行い、将来に渡って持続可能な公共交通のあり方を検討してゆきます。

主な事業費			
DXの推進に係る経費	4,576万円	道路維持補修・新設改良等に係る経費	6億2,759万円
吉川駅北口駅前交通広場改修実施設計委託料	2,255万円	公園維持管理・整備に係る経費	2億7,078万円
公共交通の充実(バス事業者支援)	1,857万円	公共交通の充実(高齢者タクシー利用料助成)	1,800万円

## ～市長からのメッセージ～



### むすびに

ここまでの吉川市のコロナ対策について、市民の皆さま、そして議会においても、多くのお褒めの言葉をいただきました。

ワクチン接種の実施、様々な給付金の給付、産業支援の制度設計、保育や小中学校の運営など、どれも理念、理論があり、スピーディーかつ一人ひとりへの丁寧な対応もなされていたとの評価は、まさに日々力を尽くしている職員にとって何ものにも代え難い言葉であり、励みであり、私はそうした言葉を伝えてくださる市民の皆さまに感謝すると同時に、市民を代表する市長として、市民のために、吉川市のために奔走してくれている職員に対しても感謝の気持ちでいっぱいになります。

しかし、私がここまでのコロナ対策で一番強く感じたのは、市民の皆さまの主体性ある判断と行動、そして市への協力、そして、市民の皆さま同士の連帯の力です。

例えばワクチン接種においては、連帯の中でしっかりと情報を掴み、穏やかに接種日を待ち、その後も感染状況を見ながら慎重に行動くださいました。産業支援においては、多くの事業者農業者の方々が様々な情報や状況を市に届けてくださり、自身のお仕事だけではなく、他の分野にまで視野を広げ、一時凌ぎでは無く、先を見た産業支援策を提案くださいました。

こうした市民の皆さまの行動、そして考え方こそが、他の自治体からも評価をいただく吉川市のコロナ対策の根本にあるのだと、強く感じています。

この場をお借りし、市民の皆さまに深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

そうした主体性ある判断、行動、協力、連帯の力を持つ市民の皆さまと市が、今後も「共働のまちづくり」を進めてゆくためには、市において、市政運営における「理念」やそれぞれの分野・政策の「方向性と計画」がしっかりと確立していること、そして「共働の場」があるということが重要となります。

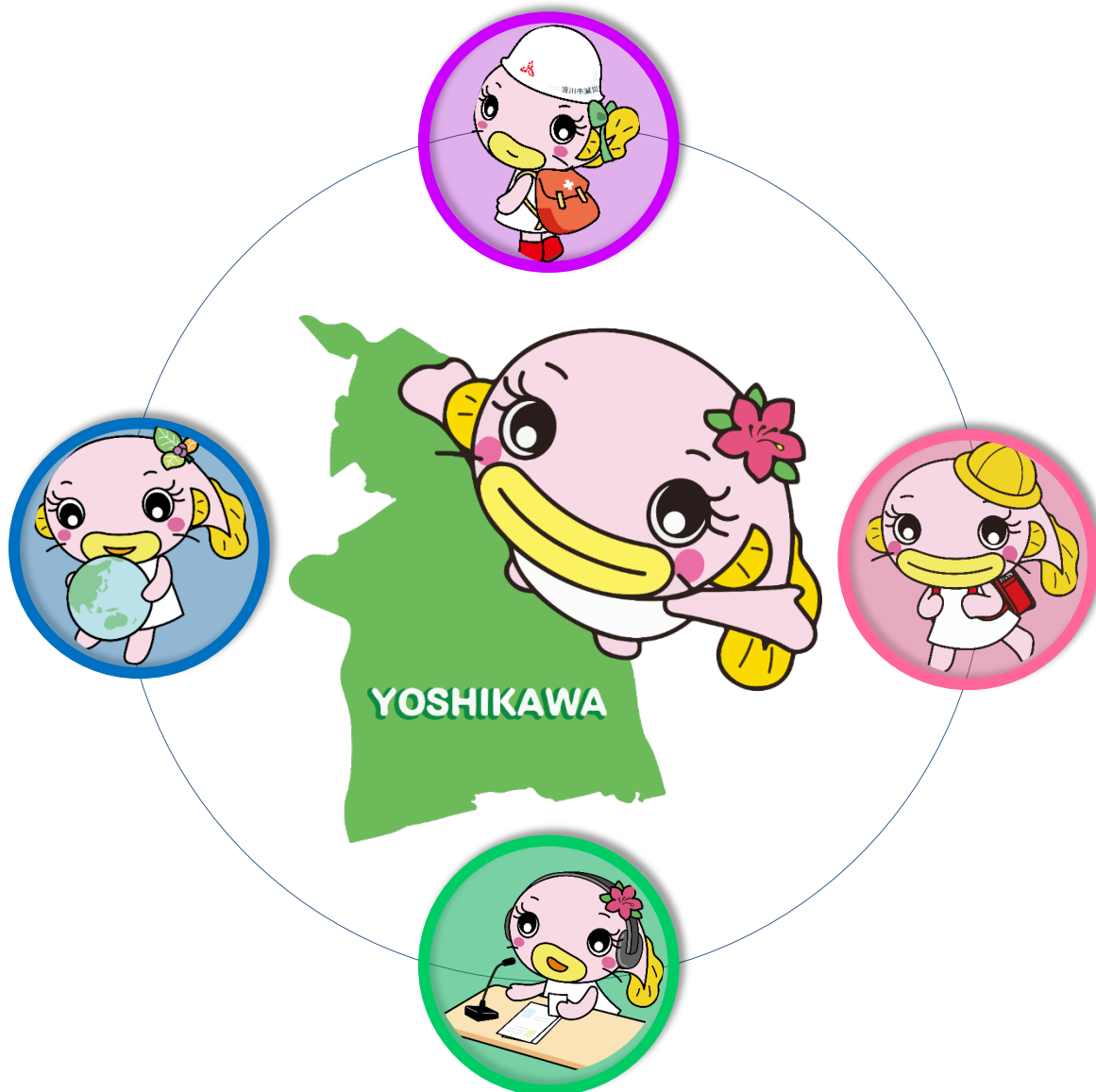
吉川市においては、これまでに「産業振興条例」「教育大綱」「文化芸術の総合政策的振興」「減災理念」「スポーツビジョン」「エネルギービジョン」「水道ビジョン」「第4次地域福祉計画」「第8期高齢者福祉計画」「パートナーシップアクション」など、各分野の方向性を打ち出し、

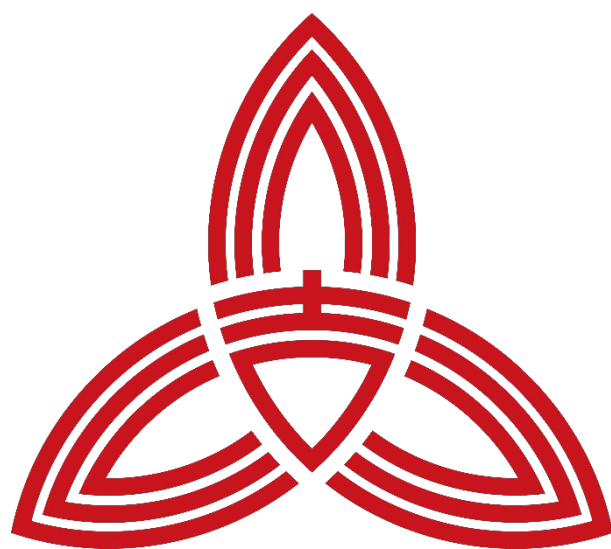
「地域課題を地域で解決するための勉強会」「障がい者の地域での生活を考える検討会議」「子ども未来応援集会」「高齢化社会を見据えた地域づくりフォーラム」「農業活性化検討会議」をはじめ、「市民シンクタンク」「みらいステップアップ助成制度」「市長キャラバン」「どこでも市長」「よしかわ若者会議」など様々な分野における「共働の場」も創設してまいりました。

そうした中、令和4年度は、市民の皆さまをはじめ吉川市に関わる多くの方々と共に2年の歳月をかけて創り上げた「第6次吉川市総合振興計画」がスタートします。また、都市づくりの基本方針である「都市計画マスタープラン」と、人口減少への対応と地方創生をめざす「まち・ひと・しごと創生総合戦略」も市民のニーズや時代の変化、新たな考え方を踏まえての改定・更新を終えたところであり、令和4年度はまさに、新たな一歩を踏み出す年となります。

吉川市が目指す未来は、「総合振興計画」に記されている「幸せつながる みんなのまち よしかわ」。これは「市民一人ひとりが幸福実感を得られる未来」であり、「持続可能で誇れる未来」であり、「それらをみんなで創り出す未来」であります。

そうした「価値ある未来」を吉川市に創り出せるよう、令和4年度も、「理念」「計画」をしっかりと掲げ、「共働の場」を充実させる中で、吉川市に関わる全ての方々と共に「まちづくり」を全力で進めてゆくこととお誓い申し上げ、施政方針とさせていただきます。





## 令和4年度吉川市主な事業のあらまし

---

【発行】吉川市

【お問合せ】吉川市 総務部 財政課

〒342-8501 埼玉県吉川市きよみ野一丁目1番地

電話 048-982-5967(直通)

---